

6. 特別講師(学外)による講義要旨

6-1 特別講師による講演



山下 広行氏 (森を守り、森を育てよう)



牛尾 武博氏 (有機農家の世界)



荻野 芳彦氏 (アラル海の消滅)



田中 英樹氏 (広域化する地球環境問題)



山崎 広治氏 (環境創造型農業の現状と課題)



小坂 高司氏 (野菜在来種の保存の実態)



反田 實氏 (魚と漁業の話 あれこれ)



藤田 しげの氏 (高齢者の消費者トラブル)

6-2 特別講師による講義要旨

(肩書きは当時)

H20年5月21日 兵庫県農政環境部 農政企画局 総合農政課長 三浦恒夫氏

◎ 兵庫県の農政基本方向、食糧危機に備えて

生産者の考え方・要望と消費者側の対応と問題点。
ひょうご農林水産ビジョン概要・説明

H20年9月17日 兵庫県姫路生活科学センター所長 藤田しげの氏

◎ 高齢者の消費者トラブルとその対処法

通商産業行政は、生産者サイドの保護・指導を重点としていたが、消費者の「安心・安全」を優先する消費者保護を目的とした消費者基本法が施行され、更に近く消費者庁の創設が予定され消費者保護の一層充実が図られる。当生活科学センターは、消費者保護の先端行政機関として活動している。

悪徳商法（催眠商法・訪問販売・送りつけ商法・先物取引）や振り込め詐欺等の架空請求詐欺についての具体例とその対処法が紹介された。

機器に弱い高齢者や認知症の人がターゲットになっており、クーリングオフ制度の解説と併せて本院生3人を演出して、「にわか寸劇」を演じさせ押し売り撃退の対応を示し、「押し売り撃退の歌」を教わった。

H21年1月21日 有機栽培農家 大村農園 大村 明 氏

◎野菜と共に生きる

神戸市西区岩岡町で約70aの面積で営農（うち、ビニールハウス8a）

5年の会社員生活から転進、有機野菜栽培の目的として ①健康に良く安全であること ②美味しいこと ③生産過程で土や水など環境に悪影響がないことを目指し、化学合成農薬や化学肥料を一切使わない「有機農法」で多品目・少量生産での野菜生産を行っている。堆肥＝牛糞・バーク堆肥・魚粉・油かす・発酵鶏糞など。土づくりが最重要点である。

市場に出荷せず、直接販売方式を目指している。価格：やや高く設定して経営の安定化を図る。

出荷先：一般家庭約30所帯に契約販売（1週1回の配送）、レストラン・ホテルは9軒、その他宅配業者などと受注販売

H21年2月18日 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 準教授 坂田宏司氏
(兵庫県森林動物研究センター主任研究員)

◎野生動物との関わりを考える。

兵庫県内における大中野生動物の生育実態と被害対策・保全のための管理技術から

1. 近年、シカ・イノシシ・サル・アライグマ等による農作物や林業の被害が増加している。
2. 被害対策として各種の駆除を実施しているが、エコシステム・サービス（自然の恵み）や生態系のバランスを考慮して自然環境を残しながら野生動物との共存を図る必要がある。野生動物の実態を知る。
3. 対策として①誘引要素の除去②防護柵設置③集落環境の整備④追い払い⑤適正数の捕獲駆除
4. 動物の管理体制強化①ペットの正しい管理②外来動物の輸入禁止③餌付け禁止

「兵庫県の漁業の現状について」

1. 現況

漁獲量の減少 H1年610億円→H18年426億円 18年で40%減

漁業者の減少 H8年9,789人→H18年8,396人 10年で14%減少

従事者平均年齢は60歳、比較的若い人も就業傾向がある。

2. 漁業の今後と対応

(1) 流通の変化 個人商店(魚屋) →スーパー(量販店)

商品規格の4条件 ①定時 ②定量 ③定質 ④定価

「獲るだけ」から「商品づくり」へ取り組んでいる。

(2) 食の安全・安心+地産地消意識の高まり

一次産業再生のチャンスである。

食品全体の県自給率：16% (H18年度)

上記のうち魚介類自給率：21% (同)

国産魚の安全推進を広報、販売促進を図る

(3) 新たな取り組み

- ・産直への取り組み→垂水漁連、六甲のめぐみ→直売所設置
- ・体験交流教室開設→漁業体験、料理教室、お魚教室
- ・おさかなファンクラブ(シートクラブ・SEAT-CLUB)の設立

「食とアンチエイジング」

・よりよく生きる

人は歳月と共に変化する。その過程で満足した人生を送るためには努力して出来るものがたくさんある。生きている限り勇気を出して変化と老化に挑戦してみよう。

○年齢に伴い現れる病態

①動脈硬化性血管症 ②アルツハイマー症 ③骨粗しょう症 ④糖尿病

○老化のバランス(老化度)

筋肉年齢→骨年齢→ホルモン年齢→血管年齢→神経年齢 これらの5部門のバランス良い均衡が大切

○長寿者に聞く長寿の秘訣

・言志四録 ・ブレスローの「七つの習慣」 ・池田の「6つの健康習慣」 ・養生訓

○食生活の影響→日本では欧米型食事の普及により糖尿病患者が増加 → <<内臓脂肪の蓄積が最大対象要因>>

肥満症予防には日本型食事が有効

①米食はパン食に比べカロリーが低い

②副食の取り合わせに野菜、豆、海藻、魚が適し、栄養・ミネラルの均衡がとれた食事ができる。

食の安全行政の現状

○食の安全安心と食育に関する条例制定(H18年4月)

(1) 制定理由の1: BSE, 鳥インフルエンザ、食品表示偽装事件

(2) 制定理由の2: 生活環境変化に伴う食習慣の多様性

(3)食の安全安心推進計画

- ・生産から販売に至る一貫した食品の安全性確保
- ・食品を介した健康への悪影響の未然防止、拡大防止
- ・食品に対する県民の信頼確保

(4)食の安全安心にかかる事件・事故の例

- ・情報の集約、一元化
- ・緊急時の速報体制強化
- ・輸入加工食品の安全確保策の強化

(5)輸入食品関係（食料自給率、検疫所、輸入監視体制）

(6)食品トレーサビリティの確立

生産者→流通業者→販売店→消費者

生産品（取引内容）の記録・作成・保存が確実に行われ各ルートで確認できること。

(7)食品衛生管理プログラム（県版H A C C P）認定制度

H 2 2 年 6 月 1 6 日 兵庫県農政環境部 農林水産局 林業課 谷口英樹氏

「兵庫県下の林業の現状と林業行政の進め方」

1. 森林・林業の基礎知識

森林面積、材積、国有林と民有林、人工林と天然林
針葉樹と広葉樹、所有形態と所有規模、人工造林の推移
木材価格と素材生産費・運搬費、林道・作業路、
木材の生産現場、木材自給率、木材輸入相手国

2. 国の動き

森林・林業再生プラン、10年後木材自給率50%目標

3. 兵庫県の主な取り組み

「資源循環型林業ひょうご戦略」の展開
（原木生産）路網整備と集約化、機械化による低コスト化
（加工・流通）大型製材工場の整備（県産木材供給センター）
（消費）ひょうごの木造・木質化作戦
「新ひょうご森づくり」と「災害に強い森づくり」

4. DVD鑑賞 「未来を育むひょうご木の家」

～人と環境に優しい木材を使った暮らし～

H 2 2 年 1 0 月 2 0 日 県民政策部生涯学習課 田中英樹氏

「広域化する地球環境問題」

1. 日本の環境問題の経緯
 2. 環境省の行政施策
 3. 発展途上国の食糧とエネルギー事情
 4. 各国の温室効果ガス排出状況
 5. 日本の環境破壊の現状
 6. 日本の飲料水
 7. 海域と下水道
 8. 先進国と化石燃料によるエネルギーの削減
 9. 日本のエネルギー及び食糧自給率
- 発展途上国への資金、技術援助（ODA：政府開発援助）

H23年1月26日 県農政環境部 農林水産局畜産課 永田圭司氏

「但馬牛の特性と今後の課題」

- ・口蹄疫について
 1. 清浄性の確認
 2. 情報の提供・注意喚起
 3. 防疫(消毒)の強化
 4. 県有種雄牛のリスク分散
 5. 危機管理体制の確立
 6. 広域的な協力体制の構築
 7. 関係団体との協定締結
 8. その他
- ・兵庫県の畜産は農業産出額の3分の1を占める
- ・神戸ビーフ：兵庫県の農家で生まれ、肥育された但馬牛
- ・但馬牛の歴史：5世紀頃？渡来、種雄牛を集中管理し、閉鎖育種
- ・神戸ビーフはなぜおいしい？触感/脂肪交雑、香り/脂肪酸組成、味/アミノ酸組成
- ・牛を放牧しよう：コスト・労力の低減、牛の健康、環境保全、中山間地域の活性化、鳥獣害の低減
- ・EPA/FTA、TPPへの対応

H23年2月16日 兵庫県農政環境部 農林水産局 農業改良課長 山崎広治氏

「兵庫県の環境創造型農業の現状と課題」

- ・農薬を使い始めて70年、それまでは有機農業だった。
- ・人口増加に伴い食料生産を増やす必要があるが、農地を増やせるか。
- ・H6年4月兵庫県環境創造型農業推進計画策定
(H30年目標：ひょうご安心ブランド10,000ha、環境創造型農業37,000ha)
- ・県推進体制の強化
農業者の意識高揚をはかる、研修会の開催、有機農業者への支援
消費者等の理解の促進、担当普及指導員の配置
- ・ひょうご安心ブランドの推進（コウノトリ育む農法）

H23年3月16日 動物教材研究所 Pocket
(元 KSC 生還コーディネーター) 松本朱実氏

「動物の食べ物と体つき」多様な特徴と環境との関わり

- ・動物とは
 - ・哺乳類の特徴
 - ・哺乳類の歯の形 食べ物と食べ方 消化機能の比較
 - ・日本の自然と生物相互の関わり合い
 - ・生物多様性の保全に向けて 環境教育プログラムの事例紹介
- 「動物のウンチいろいろ」

H23年6月15日 兵庫県農政環境部 農産園芸課係長 小坂 高司氏

「野菜在来種の保存の実態」

保田先生、井戸知事会談により「ひょうごの在来種保存会」発足
ひょうご在来種保存会通信より丹波大納言小豆、丹波黒、オランダトマトなど伝統野菜、姫路のえび芋・レンコン、北村わさび、播磨のウリ類などの紹介。
なにわの伝統野菜、京都の伝統野菜に学ぶ。